

ワークショップ トイレプラン案の報告ほか(オンライン)

2023 年 1 月 30 日

2022 年 8 月 29 日開催の「みんなでトイレプラン作成チャレンジ」ワークショップで3班から提案されたトイレプランをもとに、事務局と作り手企業が考えたトイレプランを示しました。また、館内の移動経路や避難計画、カームダウン・クールダウンの設計内容について説明し、ご意見やアドバイスをいただきました。

1. トイレプラン案の提案

誰もが分け隔てなく使えて、使いやすい「トイレ」とし、どうしても男女別でないと抵抗が大きい人のための男女各専用スペースや、多様なニーズに対応するためのファミリーコーナーやスタイリングコーナーなどを追加

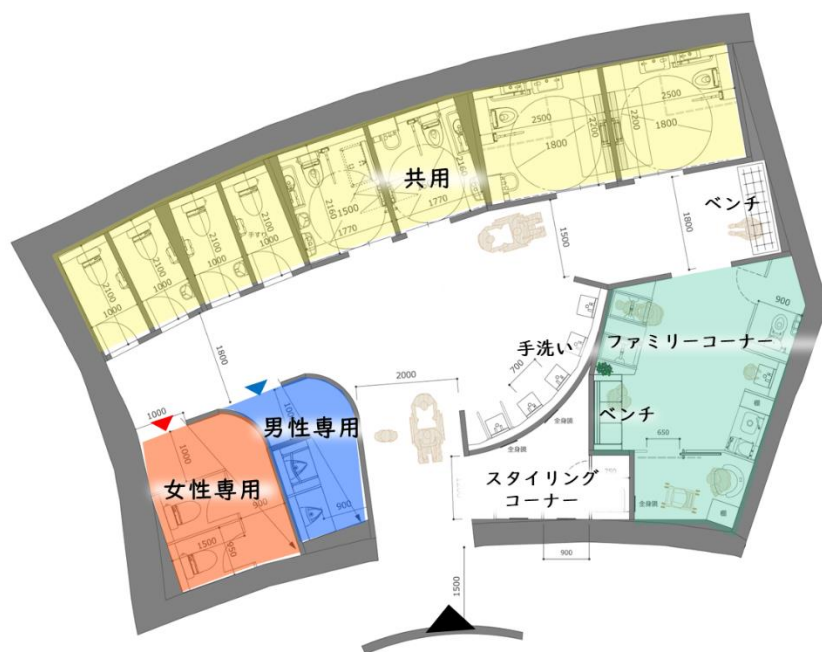


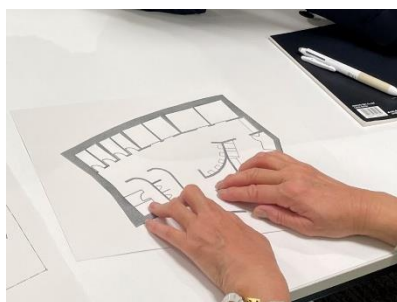
図:トイレプラン案

従来の男女別トイレもあえて
設けることで、トイレに対する
『意識変革』のきっかけに



トイレの既成概念を変える
ミライ社会の実験場

視覚障がいのあるメンバーには、事前に立体コピーや模型を使って、トイレプランと移動経路について説明しました。



写真①:トイレプランの立体コピー



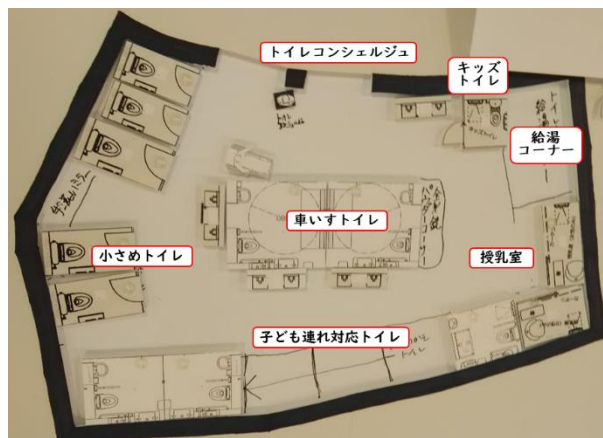
写真②:模型を使って移動経路を確認

各班のプラン

A班

- 概要

- ・介護、介助、性的少数者などのことを配慮したオールジェンダートイレ
- ・全部個室で小便器なし(視覚障がい者もどこに入っても OK となる)

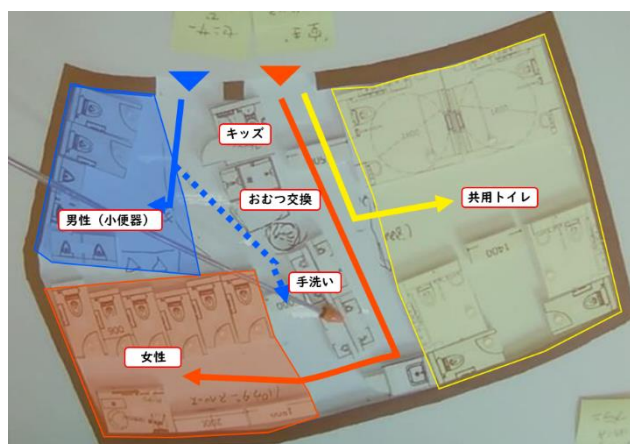


写真③:A班のトイレプラン

B班

- 概要

- ・男女共用エリアと男女別エリアで構成
- ・手洗いとキッズ関係は中央に配置
- ・小便器は効率化のため設置
- ・女性や宗教的な問題でオールジェンダーに抵抗がある人もいる

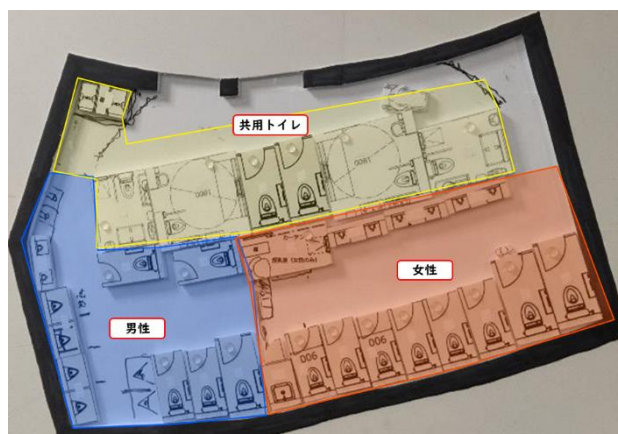


写真④:B班のトイレプラン

C班

- 概要

- ・男女共用エリアと男女別エリアで構成
- ・入口近くに男女共用、奥に男女別を配置
- ・オールジェンダーはまだ抵抗がある人が多い。男女別も残した方がよい



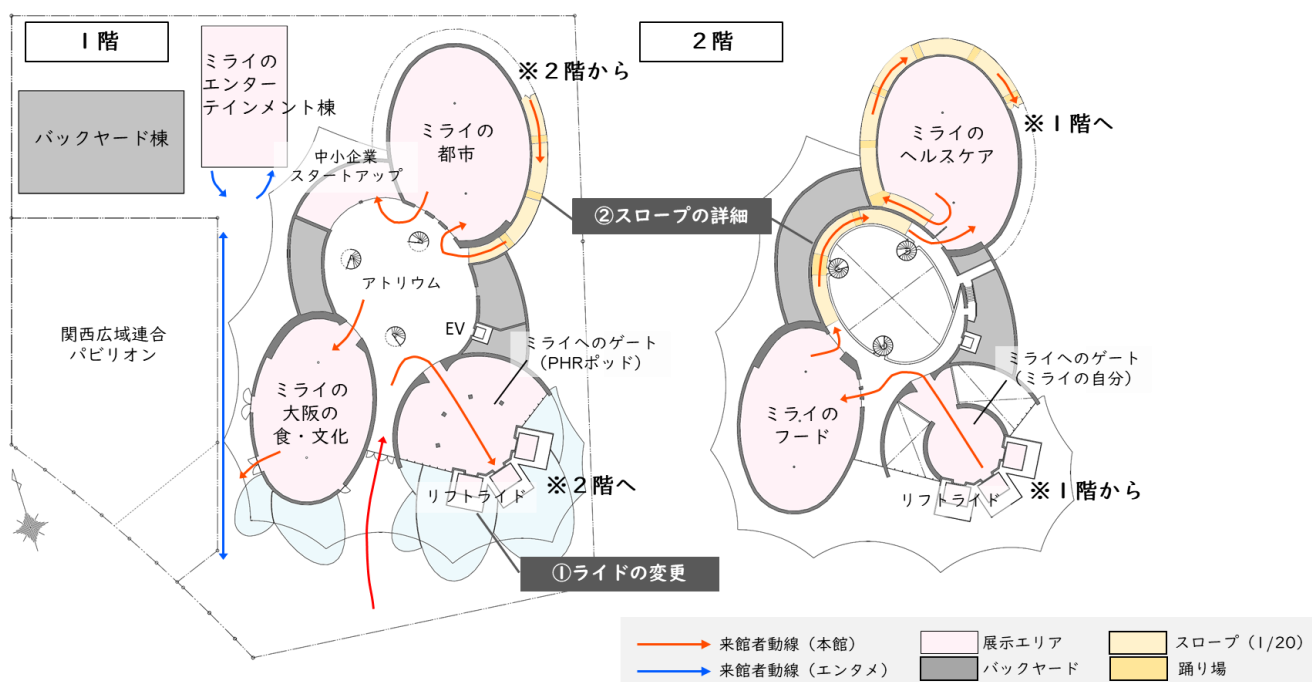
写真⑤:C班のトイレプラン

2, 館内の移動

大阪ヘルスケアパビリオンでは来館者がみんな同じルートで展示を体験できます。今回、ライドについても、よりワクワク感を感じてもらう、すべての人が一緒に体験できる、より高い安全性の確保できるよう、「カート型」から「リフト型」に変更したことを説明しました。また、来館者の避難計画についても説明しました。

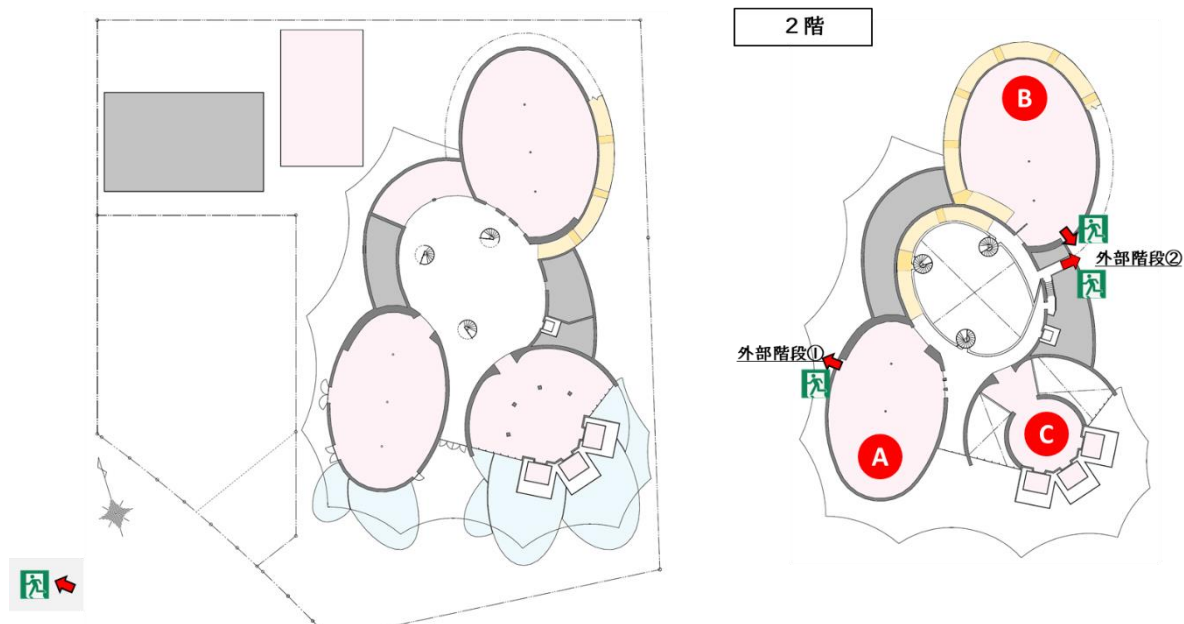
○館内の移動経路

ルートの途中に階段・段差がなく、全ての来館者が一緒に同じルートで体験ができます。



○来館者の避難計画

非常口の位置や各展示ゾーンからの避難経路について確認しました。



○来館者の避難計画(設備)

火災発生時の安全確保のための設備や緊急時の避難誘導のための設備について説明しました。

●火災発生時の安全確保のための設備

煙

① 防煙区画

→火災時に発生した煙を建物全体に拡げないために、壁もしくは垂れ壁により区画します。



② 排煙設備

→火災時に発生した煙を建物外部に排出するために、煙が自然に排出される排煙口もしくは機械で強制的に煙を排出する装置を設置します。



火

③ 消火設備

→館内各所に、火災時に自動的に作動するスプリンクラーを配置します。



●緊急時の避難誘導のための設備

①非常放送

→音声により警報と避難誘導を建物全体に行う放送設備を設置します。

②非常放送

→音声により警報と避難誘導を建物全体に行う放送設備を設置します。

③光警報装置

→トイレには、光の点滅で警報する装置を、各ブース等の個室に設置します。

④緊急情報表示システム

→非常放送と連動して、火災情報やその他災害情報を表示する表示板をアトリウムに設置します。



⑤避難口誘導灯

→避難口には、点滅機能および音声誘導機能を持った避難口誘導灯を設置します。



⑥モニター付きインターホン

→外部階段の一時待避スペースに、防災センターと会話ができるモニター付きインターホンを設置します

2. カームダウン・クールダウン

1 階と 2 階に1か所ずつ設置するカームダウン・クールダウンルームの内装や設備の設計の考え方を説明しました。今後、ワークショップを開催し、「室内の色調はどのような感じにすると良いのか」、「家具はどのようなものが良いのか」「内装材のサンプルの確認」「扉の有無や形状、鍵の有無」などの詳細を検討していくことをお伝えしました。